

2021年度 聖書講座

# 新約聖書の奇跡物語

① 10:25～10:30

## 挨拶

川中 仁 (上智大学神学部教授)

② 10:30～12:00

## 挑発としての奇跡

—イエスの奇跡物語伝承をめぐる諸考察—

廣石 望 (立教大学文学部教授)

③ 13:30～15:00

## 奇跡物語を解剖する

前川 裕 (関西学院大学理学部准教授・宗教主事)

④ 15:15～16:45

## 神の救いのわざの「しるし」としての奇跡

川中 仁 (上智大学神学部教授)

11月

13日

(土)

【開催方法】 会場(定員50名)+オンライン

【会場】 上智大学中央図書館8階821会議室

【申し込み方法】 受付期間:10/1～11/8

下記申込フォームよりお申込ください。お電話での受付は行っていません。

※お手数ですが、お申し込みの際「kiriken-co@sophia.ac.jp」からのメールを受信できるよう、迷惑メール設定から解除、または受信設定をしていただきますようお願いいたします。

(申込フォーム)<https://forms.office.com/r/NkjZ73ZV7L> ▶

【聴講料】 お支払は銀行振り込みのみ。詳細はお申込後、別途ご案内いたします。

一般1,000円 学生:800円

【問合せ】 ご不明点等ございましたらお問い合わせください。メール:kiriken-co@sophia.ac.jp

電話:03-3238-3540(受付時間:月曜～金曜13:00-15:00)

※開催方法、問合せ受付時間は変更になる場合がございます。

※最新情報等は研究所HPにてお知らせいたします。

※パソコンの操作についての電話でのお問い合わせにはお答えできかねます。何卒、ご了承ください。

【共催】 カトリック東京大司教区

上智大学キリスト教文化研究所



問合せ先

上智大学キリスト教文化研究所

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町 7-1

Tel.03-3238-3540

HP. <http://dept.sophia.ac.jp/is/icc/>

# 新約聖書の奇跡物語

	時間 講師 講演概要
1	10:30~12:00 <b>挑発としての奇跡——イエスの奇跡物語伝承をめぐる諸考察——</b> 廣石 望 (立教大学文学部教授)
内容	<p>新約聖書の福音書に保存されたイエスの奇跡物語は、それを読む私たちに、「それでこそ信じるに値する証拠」という肯定的な反応と並んで、「そんなことは(医学的自然科学的に)ありえない」という拒絶反応の両方を惹き起こします。</p> <p>近代の聖書研究には、イエスの奇跡から「異常」と見える要素を取りのぞく試みもありました。しかしながら、驚嘆と苛立という「挑発」はもともと伝承の核心に属し、それがあって初めて個々の物語も造形され、伝承されたとも思われます。</p> <p>では、史的イエスのどのような行為が「奇跡」と見なされ、それらのできごとは何を意味したのでしょうか。古代の周辺世界に伝えられている奇跡と比較して、イエスに特徴的な要素は何でしょうか。またイエスに関する復活信仰が成立して以降、彼の奇跡物語伝承に何が生じたのでしょうか。</p> <p>こうした問いを、いくつかの具体的なテキストをとりあげつつ、ごいっしょに考えてみたいと思います。</p>
2	13:30~15:00 <b>奇跡物語を解剖する</b> 前川 裕 (関西学院大学理学部准教授・宗教主事)
内容	<p>20世紀の新約聖書学は「物語批評」(narrative criticism)という方法論を発展させてきました。世俗文学の世界では20世紀初頭、それまで印象で語られてきた文学作品について、明確な分析項目や基準を立てて読み解き、そこから新しい理解を汲み取ろう、という動きが始まりました。聖書学がそれらを取り入れたのはそれよりもかなり遅く、20世紀の後半でした1980年代から福音書に対する物語批評的研究が始まり、それ以降は急速に各文書に対する研究が進められました。しかし日本の聖書学界ではそれほど普及していないのが実情です。</p> <p>今回は新約聖書の奇跡物語をいくつか取り上げ、物語批評の観点からそれらの意味を探ってみたいと思います。物語批評とはどのような方法かという概説から始め、奇跡物語を「物語」として「解剖」するとどのように読み解けるのか、事例を踏まえてご紹介する予定です。</p>
3	15:15~16:45 <b>神の救いのわざの「しるし」としての奇跡</b> 川中 仁 (上智大学神学部教授)
内容	<p>ローマ・カトリック教会では、従来、新約聖書の「奇跡」は、神の全能を証明する「外的証拠」とされてきたが (DS 3009 参照)、第二バチカン公会議では、「奇跡」は、神の救いのわざを啓示するイエス・キリストの出来事全体において理解すべきであるとされている (DV 2-5 参照)。新約聖書に描かれたナザレのイエスの「奇跡」は、自然法則をも凌駕する超人的能力を証示するものというよりも、イエス・キリストの出来事をとおして開示された神の救いのわざの「しるし」としてとらえるべきである。このような奇跡理解は、新約聖書の「奇跡」を、歴史的事実か否かという関心よりも、むしろ物語テキストとしてテキスト本来の意図にもとづくメッセージを読み取るという読解方法と軌を一にしている。本講では、教会公文書にみられるローマ・カトリック教会の奇跡理解の変遷を踏まえつつ、新約聖書テキストの読解をとおして、「奇跡」はどのように理解すべきかを考えてみたい。</p>